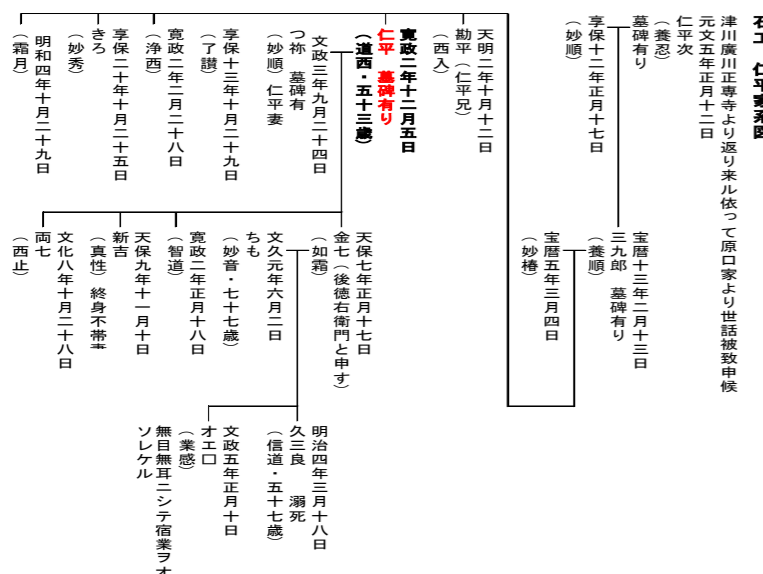


「肥後の石工」年表

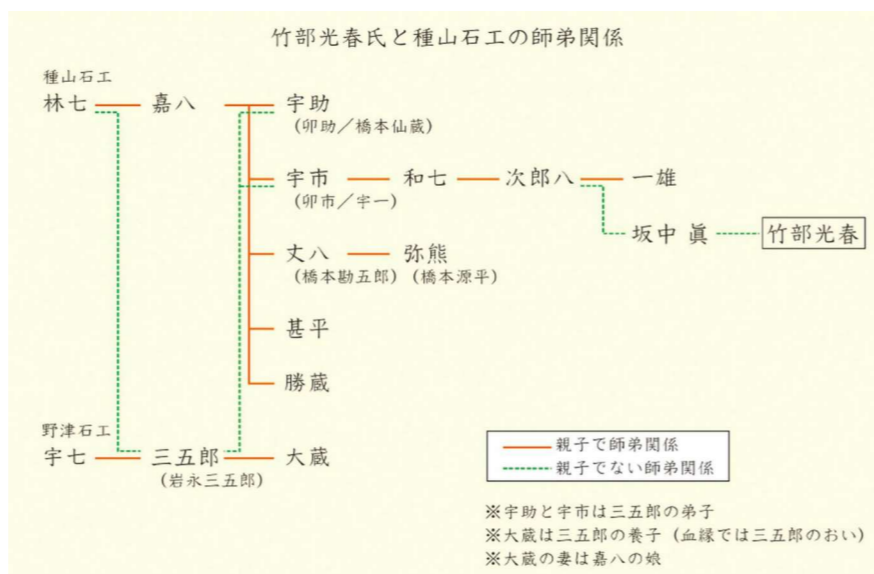
「肥後の石工」といっても、江戸時代から明治時代まで数多くの石工がいました。その中でも、加藤清正の熊本城築城に関わった「近江の石工」をルーツとする「仁平石工」グループと、長崎奉行所の武士「藤原林七」を祖とする「種山石工」グループの2つの大きな石工集団に絞って、年表形式で紹介します。

「仁平石工グループ」の石橋は、長崎の石橋を参考とした中国式(リブアーチやくさび利用に特徴)で、主に県北を中心に1700年代後半から1800年代初期にかけて架設しています。一方、「種山石工グループ」は、1800年代初めから、八代市東陽町種山地区(旧種山村)を拠点として、通潤橋をはじめとするアーチ式石橋を日本全国に造り続けていった土木技術集団で、開祖「林七」以来の独自の技術工法による熊本(日本)式の石橋を手がけています。

西暦	1601	1607	1634	1765	1774	1782	1787	1793	1802	1805	1808	1817	1821	1822	1832 ~1839	1839	1845 ~1849	1847	1848	
元号	慶長6	慶長12	寛永13	明和2頃	安永3	天明2	天明7	寛政5	享和2	文化年間	文化5	文化14	文政4	文政5	天保3~10	天保10	弘化2 ~嘉永2	弘化4	嘉永元年	
仁平石工グループ	りめ加藤清正、熊本城築城のたよ	島たちを益城郡に住まわせる。現嘉	で帰崎九郎の息上石橋「仁平」の誕生		(熊本最初のアーチ橋を架ける。)	陽村「仁平」、黒川眼鏡橋を架ける			架衛仁平グループの石工「豊岡橋を		町に平川橋を架ける。御船									
種山石工グループ				る種山石工の開祖といわれる。		に橋武この頃、長崎奉行所の下級	石工のし、逃亡(種山)と改	野津石工「宇七」の次男と		架の上この頃、林七が鍛冶屋谷に		雄砥三五郎、8月より下益城郡	る「橋本勤五郎」が生まれる		に三五郎、矢部(現山都町)	尻と八の次男「宇市」、の両野	架川永三五郎、鹿児島の橋を突	石工、壺台橋を架ける。	宇助・丈八兄弟ら72人の	橋が中心となり、御船川目鑑
	1849	1850	1851	1854	1855	1859	1860	1870	1873 ~1874	1875	1877	1886	1889	1893	1896	1897	1933	1955	2005	
	嘉永2	嘉永3	嘉永4	安政元年	安政2	安政6	万延元年	明治3	明治6-7	明治8	明治10	明治19	明治22	明治26	明治29	明治30	昭和8	昭和30	平成17	
	る(新助・久左門、砥用町)	金内橋架ける。(現山都町)	三五郎、59才で死去。	る甚平らにより通潤橋を架ける。	を甚平・丈八、御船の八勢橋	る丈八の次男弥熊が生まれ	立門橋を架ける。菊池に	と改名する。丈八、「勤五郎」	架ば橋本勤五郎、明治政府に呼	架勤五郎、熊本市に明八橋を	架勤五郎、熊本市に明十橋を	に勤五郎・弥熊父子、御船町	に遠坂岩吉・畑中尉助、産山	上勤五郎に洗玉橋を架ける。福岡県	東畑中尉助、宇城市小川町海	7橋本勤五郎、7月17日に	部種山石工七代目となる、竹	陽山村が発足。河俣村が合併、東	代東陽村が八代市と合併、八	



「菊鹿の石造物」菊鹿町教育委員会より



「肥後種山石工技術継承講座」次世代につなぐ石橋構築・修復技術より

「日本の石橋を守る会」
「日本の石橋を守る会」は、全国の石橋(石造アーチ橋)が解体・廃棄されることを危惧した有志により1980年に結成された石橋の保護活動団体で、石橋の存続のための多様な活動を続けている。「日本の石橋を守る会」(<http://www.ishibashi-mamorukai.jp/>)
江戸後期の熊本(肥後)種山村(現 八代市東陽町)に、日本国内最高峰の石橋築造技術を有する「種山石工集団」がいた。しかし、現在その技術保持者は竹部光春氏※、ただ一人となっている。そのため、消滅しようとする石橋構築技術、および石橋そのものを継承し保存するために、2011(平成23)年度より「種山石工養成講座(平成29年度から(社)石橋伝統技術保存協会に移管し、現在は 石橋保存技術者養成講座)を開始、少人数による確実な石橋構築技術の後継者育成を行っている。「(社)石橋伝統技術者保存協会」(<https://www.ogami.co.jp/acts/index.php>)
※竹部光春氏(熊本県下益城郡砥用町(現 美里町)出身)
石橋の構築修復技術の継承者である竹部光春氏は、肥後種山石工の祖、藤原林七から数えて7代目となる、種山石工集団の確かな技術を受け継ぐ、ただ一人の技術的末裔である。

※この年表は、『「肥後種山石工技術継承講座」次世代につなぐ石橋構築・修復技術』及び熊本国府高等学校パソコン同好会のサイト「肥後の石橋」等を参考に作成しています。
『「肥後種山石工技術継承講座」次世代につなぐ石橋構築・修復技術』
http://www.ishibashi-mamorukai.jp/taneyama/20150218-0005-001/_SWF_Window.html
「肥後の石橋」<http://www.kumamotokokufu-h.ed.jp/kumamoto/isibasi.html>
作成:「石橋の魅力を伝える会」連絡先:080-1741-6971(森川 孝一)